



農子

○店頭のバケツの大枝花馬酔木
訃報欄吾は何時迄と亀が鳴く
春耕の土悉らかく畝曲がり

初江

○清しさを全開にして春の堰
奈良公園広し馬酔木の花盛
亀鳴けばミヤクミヤクも鳴く万博前

丞子

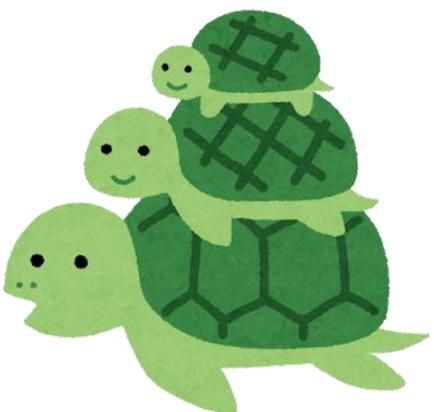
馬酔木咲く土堀の内の佇まひ
御飯を「つぐ」か「よそふ」か亀鳴けり
家族宛感謝の手紙卒業す

郁子(土)

○鳥雲に追手前校大時計
山狭に白し孤高の山桜
亀鳴くや消えてしまったモンブラン

酔花

○縄電車亡母も誘い夜桜へ
相似形今日の天と今日の雲
一面の菜の花ふつとランドセル



えり

○今はもう一人がよろし花大根
黄砂ふる一日畑の草引いて
姪の子に指握られて春の昼

志津子

○そら耳か彼岸の母か亀鳴けり
花馬酔木見初めた頃や遠くなり
亀鳴くや鯉に撒く餌欲しそうに

富子

○隠沼に悲恋伝説亀鳴けり
○万の鈴振って風追ふ花馬酔木
春風へ弾ける胸のボタンかな

千代

○向い風花房波打つ馬酔木かな
雨に打たれこぼれ山吹庭を染め
祖母の手を離して迷子に亀が鳴く

紀美

○藪の中白水仙に矜持あり
廢村や母の墓石花の舞う
海の傷甲羅に刻む亀が鳴く

迪子

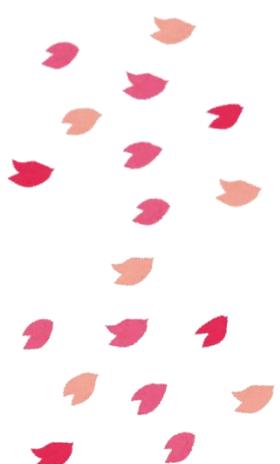
○谷水のつきたる先の芹を摘み
亀鳴くや邦画に日本語字幕入れ
花馬酔木豊かに咲きて寂しけり

綾子

○天守への入場券を花のころ
○両膝を地面に付けて朝桜
片隅に殉職之碑や花のころ

哲也

味元 昭次 作品



花馬酔木老眼鏡を取り出しぬ
復讐は断念すべし花馬酔木
少年の恋はスマホで亀鳴きぬ

★次回市民句会
【開催日時】
令和七年四月二十三日(水)
午後一時十五分〜午後四時(予定)
【場所】
オーテピア4階 研修室
どなたでも自由にご参加いただけます